



流されないで…



理事 師岡 さと子

世はまさにIT時代、世の中の経済活動も学校教育も様変わりしてまいりました。幼児期からスマートフォンやゲーム機に触れる機会も多くなりました。また、その操作も子どもたちは瞬時に会得します。小学生も安全対策の一環として、携帯電話の所持を条件付きで許可されます。中学校現場では生徒一人ひとりにタブレット端末を準備し、授業に活用する時代となりました。

このように、子どもたちを取りまく社会の変貌は急速に進んでいます。20年後には今ある職業の半分は無くなるといわれています。こんな時代だからこそ、しっかりと地に足をつけた心の教育、人間教育が重要になってくると思います。私自身、学校教育のことは良く分かりませんが、今の児童生徒の皆さんは、紙の辞書をどれだけ活用しているのでしょうか。パソコンでは経験できない能力を育ててくれるのではないかと思うのです。しっかりと時間をかけて学ぶことの重要性を再認識することも必要なのかなと感じます。

さて、私たちの保育、子育ての世界はどうでしょうか。子どもの成長は、昔も今も変わりません。時代が変わり、乳児をお預かりする割合が非常に多くなりました。母乳やミルクを飲む量、時間も個人差があるものの、概ね変わりません。しかし、世の中の動きは急速に進んでいます。それに遅れまいと親御さんは日々頑張っています。ここで、私たちはもう一度立ち止まって、子育て、保育に必要なものは何かを考えていく必要を感じます。

「継続は力なり」という言葉があります。私の保育園では、乳児から幼児までその年代の能力に応じた生活力の援助を続けています。戸外に出て木々や花を見たり、日差しの温かさを感じたり、また、雲の流れに思いを馳せたりと自然に浸る時間をたっぷりと持たせます。室内では、座ってゆっくり絵本を読むことから、人の話をしっかりと受け止めることができる心を育てるようにしてまいりました。乳児期から入園してくるケースが多くなった今、こうして継続した生活が必要となっていて、それには確かな時間が必要です。流れに惑わされず、しっかりと地に足をつけていきたいと思います。

どんな時代が変わろうとも、子どもの育ち、体の成長は大きくは変わりません。どうか心の成長がしっかりと寄り添うような保育、教育であって欲しいと願うものです。

今、保育業界も大きな転換期を迎えています。社会福祉法人制度改革、保育所保育指針の改定、待機児童の解消、保育士不足など諸問題も山積しています。民保協の皆様の活動も大変ではありますが、重要なのは子どもの健やかな成長に尽きると思います。今後とも仲間で知恵を出し合い、子どもたちの幸せに繋がる保育に努めてまいります。